

世界初^{※1}、人工知能を活用したタクシー乗車需要予測「AIタクシー」運行開始

～人工知能を活用し、お客さまの利便性向上とタクシー業務の生産性向上を追求～

東京無線協同組合（以下、東京無線）は、人工知能を活用した株式会社NTTドコモ（以下、ドコモ）の未来のタクシー乗車需要を予測するサービス「AIタクシー[®]」の採用を決定し、2018年2月15日（木）より東京23区、武蔵野市、三鷹市で運行を開始します。ドコモの「AIタクシー」を活用して運行するタクシー車両は1,350台で、順次運行を開始します。

東京無線が参加した「AIタクシー」の実証実験では、2016年12月から2017年3月のフィールド実証全期間4か月連続で売上と実車率^{※2}が向上し、タクシー車両1台1か月あたり平均で42,270円^{※3}アップ、実車率^{※2}が3%アップしました。また、効率の良い営業方法を示すことは、新人教育や乗務員確保に有効であることや、ベテラン乗務員にとっても知識・経験の補完・補正ができ労働の効率化が実現されたことが確認できています。

■「AIタクシー」採用による効果

①お客さまのタクシーの待ち時間を短縮

AIが先読みした需要予測に基づいてタクシーが先行して向かうので、お客様の待ち時間の短縮が期待されます。

②電車遅延やイベントなどの非日常的な乗車需要増に対応

人数分布の時系列変化をリアルタイムに把握することにより、突発的な事由により、日常よりも人が多く滞留することで発生するタクシー需要や、通常では気づけないような、潜在的なタクシー需要の可能性を発見できます。

③乗務員ごとの実車率の底上げによる労働生産性の向上

各乗務員の運行効率化により、本人の収入金額の向上はもとより、タクシー事業者の収益向上にも、貢献します。また、これまでリアルタイムには把握しづらかった需要を伝えることで、新人乗務員も安心して働くことができ、優秀乗務員の育成や、新たな乗務員確保が期待され、労働力不足解消の一助になります。

④業務効率、生産性向上、環境への配慮

タクシー運行をAI化することにより、閣議決定された未来投資戦略2017に応え、働き方改革の促進や生産性向上をめざします。運行効率向上によって空車走行を減らし、CO₂削減等のエネルギー有効活用につながると考えています。

近年、国内外のお客さまの観光需要の高まりで移動需要が伸びていく一方、人口減少や超高齢社会に直面する日本において、乗務員不足やタクシー運行効率化といった交通課題は切実な問題です。また、働き方改革や生産性革命の実現が求められています。

東京無線は、「AIタクシー」の導入により、お客様の利便性向上とタクシー事業における生産性向上を追求します。

※1. 東京無線独自の調査による。2017年12月時点。

※2. タクシーの運行距離における、お客さまが乗車した距離を率で表したものととなります。

※3. 一人一日あたり平均で1,409円売上向上。タクシー車両を30日運行した場合の向上額。

* 「AIタクシー」は株式会社NTTドコモの登録商標です。

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先

東京無線協同組合 業務部

TEL : 03-5860-9530 FAX : 03-3364-1205